（様式２）

※様式２で計４～５枚程度に収めること。

一次提案申請書

**１．技術シーズの内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 技術シーズの名称 |  |
| 技術シーズの現状・課題 | 【これまでの研究成果】※これまでに得られている研究成果について、図表等の実験データ(別添可)とともに定量的・具体的に記載。※特許化によらないノウハウやソフトウェア等に関する技術の場合は、その詳細について記載。【現時点の技術的課題】※技術シーズが属する技術の背景や動向を踏まえ、現状の技術的課題を記載。 |
| 発明（周辺特許を含む） | 発明の名称 | 出願番号・特許番号 | 発明者 | 出願人 | 出願日 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 当該技術シーズに関する企業とのアライアンスやライセンス契約等の状況 | ※当該技術シーズに関して、既に企業との共同研究を行っている場合やライセンス契約等がある場合は、その状況について具体的に記載。 |

**２．技術シーズの革新性・優位性**

|  |  |
| --- | --- |
| 技術の革新性 | ※技術シーズの有する潜在的価値や可能性、革新的機能、社会に与えるインパクト等を記載（既存技術や既存マーケットとの比較優位性については、当欄への記載不要）。 |
|  | 提案課題 | 競合する類似研究・先行技術 |
| 技術の優位性 | ※右記の類似研究・先行技術と比較して、どのような点に優位性があるのか、具体的に記載。 | ※比較対象となる研究内容、又は先行技術の文献・特許等の公開情報に関する内容を記載（ただし、直接的に比較できる対象がない場合は記載不要。）。 |
| 研究開発スピードの優位性 | ※右記の類似研究・先行技術と比較した時の研究開発スピードの優位性を記載。 | ※類似研究・先行技術はどのようにして開発を進めようとしているのか、またその進捗状況、達成見込みについて分かる範囲で記載。 |

**３．社会的背景を踏まえた技術シーズの有用性・応用可能性及び市場規模**

|  |  |
| --- | --- |
| 社会的背景（外部環境）を踏まえた技術シーズの有用性・可能性 | 【技術シーズの社会的有用性】※経済・市場動向や人口動態の変化、社会的意識の変化、世論の動向、技術革新、特許・規格・知財権の国際的動向等の外部環境を踏まえ、当該技術シーズの重要性や、有用性・可能性について記載。【技術シーズの応用可能性】※応用分野において想定される用途や人々の生活において想定される使用機会などを記載。【技術シーズの社会的インパクト】※技術シーズが社会にもたらし得るインパクト、変革の可能性を幅広く記載。 |
| 技術シーズから想定される製品・サービスの内容、市場規模 | ※想定される製品・サービスの内容と、想定される市場（潜在市場）の大きさ、グローバル市場への展開可能性などを記載。※企業からの問い合わせなど市場からの反応がある場合は、できる限り具体的に記載。 |

**４．研究開発計画**

|  |  |
| --- | --- |
| 研究開発目標、事業化に向けて想定される研究開発課題 | ※当該技術シーズの革新性を踏まえて、研究開発目標や研究開発課題、研究開発構想（研究開発内容とその期間・規模等）を具体的に記載（I-Challenge!の補助金を活用する期間に限定せず、出口までの全体像を記載。）。 |
| 課題解決のためのマイルストン | ※目標とする出口までの研究開発スピード（マイルストン）について、線表を用いながら可能な限り具体的に記載（特に、現在の研究開発段階がどこにあるかを明確に記載。）。 |
| 研究開発課題のうち、I-Challenge!にて解決が見込まれるものと解決の方法 | ※上記のマイルストンのうちどの研究開発課題について、I-Challenge!の補助金を活用して解決するか、具体的に記載。※その解決の方法（例えば、POC : Proof of Conceptを実施するなど）を可能な限り具体的に記載。 |
| I-Challenge!の補助金を必要とする理由及び補助期間終了後の資金調達計画 | ※　研究開発課題の解決に必要な資金調達の状況を記載。※I-Challenge!による補助期間の終了後、目標とする出口までの間の民間資金調達計画を記載。 |

※　技術シーズに関する補足説明資料（パワーポイント10ページ以内）がある場合は添付可能。